

乙部 泉三郎・県立長野図書館長 —農村町村図書館経営論

おとべ・せんざぶろう

著者—乙部 泉三郎

編・解題—新藤 透 (國學院大學准教授)
造 本—A5判・糸上製函 (別冊のみ並製) ・総784頁
刊 記—2019年12月
揃 価—42,000円 ISBN978-4-909680-63-1

第一巻 (296頁)

- 『青年団が図書館を設置するには』(県立長野図書館、1937年)
- 『町村図書館の新経営—長野県下図書館の為の』(県立長野図書館、1939年)
- 『農村図書館経営の手引』(県立長野図書館、1934年)
- 『町村図書館に於ける図書貸出法』(県立長野図書館、1939年)
- 『農村図書館の採るべき道』(県立長野図書館、1936年)
- 『町村図書館の経営とその振興策』(群馬県社会教育課、1937年)

第二巻 (390頁)

『図書館の実際の経営』(東洋図書、1939年)

別冊 (98頁) ISBN978-4-909680-64-8 (別冊のみ分売可 2,000円)

* 解題・総目次

昭和八年二月、所謂二・四事件として世人を驚愕せしめた信州の思想事件を堺として、長野縣下の図書館に、大きな變動を來しつゝ、ある事を私は明瞭に認める。信州の図書館を大まかに觀れば、その大部分は、數に於て、又質に於て、青年の圖書館であつて、その活動の對象は又青年であつた。

青年達が自己の青春の力を持ち、自由奔放に書物を購入して耽讀したものは、實に當時我國に流行した處の社會科學書で、小説等も社會科學に關する所のものが

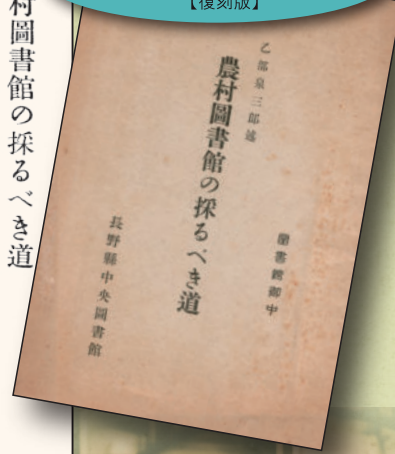
一、二・四事件を堺として

三

農村図書館の採るべき道

長野縣中央圖書館長 乙部 泉三郎 述

全二巻・別冊
【復刻版】



著者紹介

乙部 泉三郎 (おとべ・せんざぶろう 1897-1977)

日蓮宗善立寺で修業学業を積む。
1919年東京帝国大学文学部教育学科に入学、22年満鉄奉天図書館司書、23年満鉄撫順図書館主事。
26年に帰国し、日本青年館図書課勤務をへて、29年松本喜一帝国図書館長の推薦で新設の県立長野図書館司書、48年には月刊誌『弁論』、『若い広場』の編集長につく。
退任後には、泉式全音速記術の普及振興などを行った。

大正時代後期……外地・満洲における図書館経験
昭和初期……内地・日本青年館図書課での活動
昭和戦前期・占領期……県立長野図書館館長時代

図書館、メディア、社会・文化史において、
これまで詳細に検討されなかった課題を明らかにする
選定した資料群。

関連資料ご案内

【図書館学遺産セレクション 1】

『**図書の選択と整理法**—満洲国における彌吉光長』

編・解題—新藤 透 全1・別巻
造 本—B6判・上製函 (別巻A5並製) 総334頁
揃 価—15,800円



* 文圖文献類従37*

『戦前期「外地」図書館資料集』

「樺太編」編・解題—鈴木 仁 / 「北京編」編・解題—小黒 浩司
「上海編」解題—よねい・かついちろう

「樺太編／北京編／上海編」全6巻 **完結**

造 本—A5判・上製函 総2,786頁
揃 価—150,000円

編・解題—春山 明哲

「台湾編」全10巻 **完結**

造 本—B6判・上製函 総3,940頁
揃 価—198,000円

解題—小林 昌樹 / 編—金沢文圃閣編集部

「朝鮮編」全9・別巻 **完結**

付録資料—林 昌夫 (元都立図書館)

「近代朝鮮公共図書館史における民族図書館の系譜」

造 本—B5/A5/B6判・糸上製函／並製 (別巻のみ) 総約2,650頁
揃 価—176,000円

Kanazawa Bunkokaku
金沢文圃閣

〒920-0867 金沢市長土堀2-16-30
Tel 076-261-8884 Fax 233-3111

〓書店様へ…ありがとうございます
直接小圃までお申し込みください

図版はすべて本書より
価格は税別 051/1/4000

乙部泉三郎・県立長野図書館長

おとべ・せんざぶろう

—農村町村図書館経営論

乙部は戦前～占領期にかけて18年にわたり館長として在任。その活動は県内館界のみならず全国各地域の図書館に大きな影響を与えた。

全二巻・別冊

【復刻版】

乙部の生涯を俯瞰した上で
県立長野図書館長在職時に発表された
著書や論文を中心に言説分析

本書解題目次（抄）

新藤 透「乙部泉三郎の生涯と農村図書館論・選書論・読書論」

第二章 乙部泉三郎の経歴

- 第一節 出生から学生時代
- 第二節 満洲時代
- 第三節 日本青年館図書館司書から県立長野図書館上席司書へ
- 第四節 デューイ十進分類法の翻訳と分類法の開発
- 第五節 県立長野図書館長就任
- 第六節 明治天皇巡幸顕彰事業
- 第七節 図書館令改正と中央図書館制度
- 第八節 乙部が見た二・四事件後の農村図書館の現状
- 第九節 私立上郷文庫の歴史
- 第十節 新上郷図書館建設と乙部泉三郎
- 第十一節 館長乙部の図書館啓発活動
- 第十二節 日中戦争下の県立長野図書館
- 第十三節 太平洋戦争下の県立長野図書館
- 第十四節 教育委員選挙出馬
- 第十五節 乙部の図書館以外の活動
- 第十六節 戦後の乙部泉三郎

第三章 「図書館学遺産セレクション」収録の農村図書館関係図書書誌

第四章 乙部泉三郎の農村図書館論

- 第一節 I 期（1934年9月～1937年6月）
 - 第一項 農村図書館論
 - 第二項 中央図書館の役割
 - 第三項 発禁図書への対処法
 - 第四項 選書論
 - 第五項 読書論
 - 第六項 まとめ
- 第二節 II 期（1937年7月～1945年8月）
 - 第一項 農村図書館論
 - 第二項 館外貸出の奨励
 - 第三項 和室閲覧室の奨励
 - 第四項 選書論・読書論
 - 第五項 「決戦下」の読書論
 - 第六項 まとめ
- 第三節 III 期（1945年9月～1949年8月）
 - 第一項 農村図書館論
 - 第二項 読書論



第二十一章 尋常小學校國語讀本「圖書館」課

第一四二節 圖書館課の取扱

小學校教科書が改正せられて、昭和十二年四月の新学期から、尋常五年用の國語讀本卷九第十七課に「圖書館」が取扱はれた。これは決して圖書館の文字の解釋を兒童に教へると云ふ所に、その目的があるのでは無くして、圖書館が如何に有用で價値ある施設であるかと云ふ事を、兒童の心に植へ附けんとせる所にその目的があるのであらうと思はれる。

現在の公共圖書館は實際に於て兒童室を別に有つて居り、此の圖書館課にある様に大人と兒童と一緒に讀書する様な大圖書館に多し。此の圖書館を養ふ事が出来れば、「圖書館」に出て來る第八四節にある。大四

づ無いであらう。併し一度び小學校を出たならば誰でも一樣に圖書館に入る事が出来るのである。世間には未だ圖書館の真相を知らぬものが非常に兒童がその頭に圖書館の有益なる事を悟り、讀書の價値を知りその趣味如何に意義深さが量り知る可らざるものがある。

覽用紙は本書の第一〇七節と第一三〇節とに圖示してある。目錄カードは行けば各掛は専門的に分れてゐる。出納掛とは専ら借覽圖書の出納を専門